

製品名: ATF-6 β ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07280**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	90kDa

抗原情報

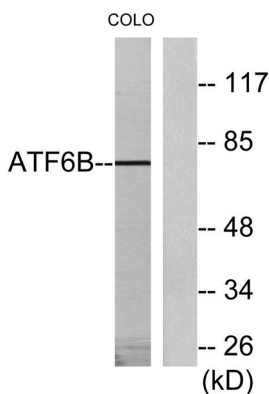
遺伝子名	ATF6B
別名	ATF6B; CREBL1; G13; Cyclic AMP-dependent transcription factor ATF-6 beta; cAMP-dependent transcription factor ATF-6 beta; Activating transcription factor 6 beta; ATF6-beta; Protein G13; cAMP response element-binding protein-related protein;
遺伝子 ID	1388.0
SwissProt ID	Q99941
免疫原	抗血清はヒト ATF6B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 401-450

背景

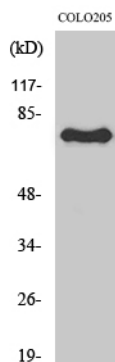
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、小胞体ストレス時の小胞体タンパク質応答（UPR）経路における転写因子です。コードされるタンパク質は、ホモ二量体または ATF6- α とのヘテロ二量体として小胞体ストレス応答エレメントに結合し、核転写因子 Y と相互作用して UPR 標的遺伝子を活性化します。このタンパク質は通常、小胞体膜に存在しますが、小胞体ストレス下では、N 末端の細胞質ドメインがタンパク質の残りの部分から切断され、核に移行します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見出されています。 [RefSeq 提供、2008 年 10 月],ドメイン:基本ドメインは核局在シグナルとして機能する。 ,ドメイン:基本的なロイシンジッパードメインは、NF-Y 三量体との会合および ERSE への結合に十分である。 ,機能:ER ストレス時に誘導される小胞体ストレス応答（UPR）標的遺伝子を活性化することにより、UPR 経路で作用する転写因子。NF-Y が ERSE に結合すると、ER ストレス応答エレメント（ERSE）の 5'-CCAC[GA]-3'側（5'-CCAATN(9)CCAC[GA]-3'）の DNA に結合する。 ,PTM:小胞体ストレス応答時に、細胞質転写因子ドメインを含む約 60 kDa の断片がタンパク質分解によって放出される。切断は、おそらくサイト 1 プロテアーゼとサイト 2 プロテアーゼによって順次行われる。 ,PTM: N-グリコシル化されている。 ,類似性: bZIP ファミリーに属する。 ,類似性: bZIP ファミリーに属する。 ATF サブファミリーに属する。 ,類似性: 1 つの bZIP ドメインを含む。 ,細胞内局在: ER ストレス下では、切断された N 末端細胞質ドメインは核に移行する。 ,サブユニット: ホモ二量体および ATF6- α とのヘテロ二量体。二量体は、核転写因子 Y（NF-Y）サブユニット C（NF-YC）に直接結合することにより、NF-Y 三量体と相互作用する。 ,組織特異性: 普遍的。 ,

研究分野

画像データ



COLO205 細胞ライセートの AT66B 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



ATF-6 β ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

